

横浜市立 今宿 小学校 平成30年度 学校評価報告書

重点取組分野	具体的取組	自己評価結果	総括
確かな学力	①前年度の学力・学習状況調査を各学年で分析して学力向上推進計画を立て、継続して実践していく。前期終了時には振り返りを行い、推進計画の見直しを行う。②基礎・基本の定着を目指し、朝学習の有効活用と家庭学習の習慣化を図る。家庭への協力も求めていく。③新学習指導要領完全実施に向け、カリキュラムの編成を行う。その中で日々の授業改善にも取り組んでいく。	①学力向上推進計画をもっと具体化し、教員同士の授業検討をさらに活発にすることで、学力向上につなげていきたい。②朝学習があることで、自ら学習に取り組む姿勢が身に付いてきたように思う。また、書く授業の中での意欲面・態度面の向上を感じる。③学校教育目標について検討することで、育てたい児童の姿を考えながら授業実践をすることができた。	B
豊かな心	①「特別の教科 道徳」の時間を大切に、児童自身が考える場、実践を通して振り返りをする場を設定し、授業の展開を工夫していくとともに、規範意識を高め、自分で考え適切な判断ができるようにしていく。②縦割りの「ふれあい班」活動やクラブ活動などを通して、互いのよさを認め合い助け合おうとする仲間意識を育てる。③あいさつ運動を継続し、人と人とのつながりを大切にしていく。	①道徳をはじめ各教科でグループやペア学習など他者理解を深める環境を意図的に設定することで、相手の気持ちに寄り添い互いに認め合う姿が見られるようになってきた。②他学年との交流において、譲り合いや助け合う機会がもてたことも有効だった。③人とのかわり方については、今後も継続的な指導の必要性を感じた。	B
健やかな体	①「基本的な生活習慣」が身につくよう食育、保健等の指導を継続して行っていく。②1校1実践運動では、学級ごとに「長縄八の字跳び」に取り組むことにより、外遊びに親しむきっかけとし、「長縄集会」を年2回行うことで主体的に体を動かそうとする意欲を高めるようにする。	①保健の授業など養護教諭や栄養職員と連携した具体的な指導や委員会活動による児童の発信により、健康への意識向上が図れた。②全校で長縄週間に取り組むことにより外遊びの機会を意図的に設けたり、ドッジビーをクラスに配付したりすることで、意欲的に休み時間に体を動かす子どもたちが多く見られた。	B
児童・生徒指導	①年間を通して「今宿小スタンダード」を基に、学校として統一した指導をしていき、年度末には必ず、スタンダードの見直しを行う。②朝会で計画的に児童指導を行い、児童の「約束は守るもの」という意識の定着を図る。③各教科の中にYPの要素を取り入れたり、学級の実態や場面に応じたものを取り上げたりして、YPアセスメントを有効に活用する。	①②一貫した指導、朝会指導の活用により児童にも浸透し、日々の安心・安全につながっていると感じる。③YPアセスメントを年間2回を行い、各クラスの指導・支援にいかすことができた。今後も、分析結果から課題に有効なプログラムを考えて実践していきたい。	B
安全管理	①教職員の不審者対応訓練等、専門機関の指導のもと研修を行い、最善の対応が取れるようにする。②様々な想定訓練を計画的に行い、児童が主体的に訓練に参加できるようにする。③PTA校内パトロールの対応マニュアルを周知し、保護者と教職員で協力して安全管理を行う。④メール配信システムを活用し、緊急時の連絡をとっていく。情報発信には細心の注意をはらうようにする。	①職員研修にて外部講師を招き、緊急時の対応の仕方以外に教室環境の安全性について再確認することができた。②児童自身の安全に対する意識が高まり、臨機応変な対応がとれるようになってきた。③保護者とも連携し、校内の安全管理に努めることができた。④発信を厳選し必要最小限にとどめるとともに、メール配信の活用を見直した。	A
特別支援教育	①特別支援教育委員会を毎月開催し、児童の実態を把握し、支援の方法を検討する。②ケース会議の計画的な実施や職員会議後の情報共有により、児童の実態把握や対応についての検討をする。③取り出し指導や入り込み指導等、児童の実態に合わせて柔軟な対応を行っていく。	①②定期的な情報交換により、個の実態把握やニーズに合わせた支援について全職員で共通理解が図れた。③児童支援専任、少人数担当、国際理解教室担当が協力して取り出し、入り込み支援を実践することで個に応じた学習支援をすることができた。	A
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会を毎月開催(教務会)し、未然防止と日常の情報収集に努める。いじめ事案が発生した場合は、直ちにいじめ防止対策委員会を開催し、解決に向けて対応を協議する。その際は、保護者と十分に情報を共有する。②年間2回いじめアンケートを実施するとともに、YPアセスメント検討会やケース会議を職員全体で行い、児童理解、いじめの早期発見に努める。	①定期的な情報交換により、いじめに対する職員の意識や態度が高まった。管理職や専任のコーディネートにより対応もスピーディーになり、解決に向けたプロセスも明確になってきた。②アンケートや個人面談、研修により早期発見が実現した。また未然防止の視点からもYPアセスメント検討会やケース会議が有効だった。	A
人材育成・組織運営	①校内研修では、特別支援教育・児童指導等、学校がかかえる課題の解決に向けて研修会を計画的に行い、組織力を生かした学校運営を行う。②教職員のステージに合わせた研究会や研修会に積極的に参加し、教師力向上に努める。③メンター研修では、人材育成マネジメント研修受講の教員がコーディネートし、授業力の向上に努める。	①計画的に校内研修を行い、今日の教育的課題や児童理解や保護者理解について理解を深めた。②研究会や研修会に積極的に参加する職員が多く、教師力が向上したと感じている。③定期的にメンターチームが機能し、コーディネートする職員のもと授業研や課題解決などを行い、指導力の向上につながった。	B
ブロック内相互評価後の気付き	・小中授業研では、「主体的に学習に取り組む子どもたちの姿」について、意見交換がなされた。各校で取り組んでいる授業スタイルや児童・生徒の様子、家庭学習や基礎基本の定着について情報共有された。 ・小中合同研修ではグループに分かれて危機管理演習を行い、それぞれのケースにおける児童・生徒理解を深めることができた。 ・人権月間の標語づくりも含め、ブロック内の児童・生徒の人権意識やいじめ防止に向けた意識を高めることができた。		
学校関係者評価	・朝、集団登校の集団から離れて登校する児童を見かける。 ・下校の時、歩道いっぱいになって歩いている児童の集団を見かけることがある。交通安全上気になる。 ・担任によって指導が異ならないように、共通感のある指導をお願いしたい。		
学校経営中期取組目標振り返り	・ふれあい活動では集会で縦割り活動を行い、仲間との協力の大切さや他者理解を深めることができた。 ・宿泊体験学習や社会科見学、出前教室などを通して一人ひとりが体験活動を行うことで、様々な経験をするとともに、人とのかわり方などを学ぶことができた。 ・学力向上計画のもと、各学年で朝学習や家庭学習などを具体的なめあてを立てて取り組んだ。その結果子どもたちの学力はわずかながら向上し、主体性や学習意欲が高まってきている。		